

## 周囲に助けられながら

専業農家として4年目を迎え、みょうが90a・水稲9.5haを営む、大高英樹さん。名古屋で飲食店に勤務していましたが、家族の高齢化等のことを考え、帰郷後就農しました。就農するまで、農業の経験は箱詰めを手伝ったことぐらいでしたが、母親の信子さんや先輩農家、JA営農指導員などに教わりながら、技術や知識を深めています。



「就農当時はトラクターの乗り方も分かりませんでした。近所の先輩農家に農機具の使い方を教えてもらおうなど、本当に周りの方々にはお世話になってます。せっかく教えてもらったことを忘れないために、日誌をつけることは欠かしません。皆さんのおかげで、少しずつ栽培が分かかってきました。」

## こだわりの栽培

大高さんが意識しているの

は、購入する立場で考え作業することです。実際に店頭で並んだ際、パック詰めされているみょうがの向きが統一されていると、サイズや重量も同じものが揃っていると、そうでないものと比べて見栄えがよく、消費者に選ばれるというデータがあります。

「出荷作業時は近くの人に手伝ってもらいますが、昔からの付き合いなので、意識の統一が図れています。また品質の良いみょうがを作るために、定期的に圃場を変更して、土壌改良剤などで地力向上を行っています。病害対策については、根茎腐敗病予防としてリドミル剤を充分に使用し、今年発生が予測された葉枯れ病についても、ダコニール薬剤で対応しました。病気は一度ついてしまうと防除が難しいので、出来る限り予防するよう心がけています。」

## 今後の目標について

「理想の栽培は適期収穫による、高品質みょうがの安定出荷です。それを目指して、

百姓としての知識や技術を高め、作物の状態を見定める『目』を養い、収量等においても、前年度を少しでも上回るように頑張っています。」先月に子どもが生まれ、父親としてより一層、農業へ従事する意識と責任感が強くなったと話す、大高さん。「子どものためにも、現在の土地を守り、きちんと継承していきたいですね。」と笑顔で話してくれました。

